

この広報誌は農学部学生広報部員が中心となって作成しています。

お問い合わせ：〒 753-8515  
山口市吉田 1677-1 山口大学農学部学務係  
TEL：083-933-5811  
FAX：083-933-5812  
E-mail：aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp



## 学部長あいさつ

農学部長 いばらき やすおみ 荊木 康臣

山口大学農学部長の荊木康臣です。今年度も無事「NOAH」第20号が完成致しました。この情報誌は、学生の皆さんの視点で、山口大学農学部の情報をお届けしようと、19年前から刊行されているものです。

従来は保護者の方々に、大学でのお子さんの様子をお伝えすることを目的としていましたが、それに加えて昨年からは、高校生の皆さんにも「山口大学農学部」を知ってもらうために配布する広報誌として、内容を少し変更し作成しています。この「NOAH」の企画・編集は、農学部の学生の皆さん（広報部）が担ってくれています。

さて、この1年間の山口大学農学部でのトピックをお伝えします。

まず、昨年11月に農業気象学分野の助教として武靖先生を、この4月には農業農村工学分野の助教として萩原大生先生をお迎えしました。昨年の4月にも、新しい助教の先生2名が着任されており、教員陣が若返るとともに、教育や研究において新しい活力や刺激が生まれています。

そして、昨年の6月には、山口大学が力を入れているデータサイエンス教育に関して、農学部の学修プログラムが、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の応用基礎レベルの認定を受けました。

山口大学では、全ての学部で、リテラシーレベルのデータサイエンス学修プログラムがすでに認定されており、理系学部では、更に応用基礎レベルの学修プログラムの整備をすすめていました。農学が対象とする農業およびその関連産業分野、食品・化学分野においても、AIの活用は必須となってきています。この認定を機に、農学分野で役立つデータサイエンス教育の一層の充実をめざしていきます。

また、研究面でもうれしい報告があります。生物資源環境科学科の執行正義教授が、この4月に、「巨大ゲノムを有するネギ類野菜におけるオーミックス統合解析とその遺伝育種研究への適用」で、日本農学賞を受賞されました。この賞は、54ある農学系学協会（いわゆる学会）の連合体である「日本農学会」から、優れた研究に対して授与されるもので、日本の農学研究者にとっての最高の荣誉となっています。

このように、山口大学農学部では、教育・研究体制のさらなる充実を図っています。今後も、学生の皆さんが学びの多い有意義なキャンパスライフを送り、将来に向けて納得のいく進路選択ができるよう、教職員一同、学生支援に努めて参ります。



# 農学部教員 研究紹介

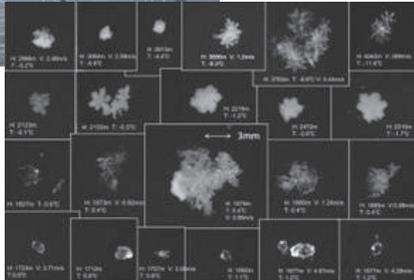
生物資源環境科学科

## 天からの手紙を取りに行く



雨雲に  
気球を飛ばす

地球温暖化によって平均気温が1℃上昇すると、相対湿度が7%上昇するとされています。気温が上昇すると大気中に含まれる水蒸気の量が増加するためなのですが、この増加した水蒸気がすべて雨や雪になって降ってきたらどうなるでしょう。日本における1時間最大の降水量の記録は153mm/hですが、10分間の最大雨量は55mm/10minです。ということは、もしかしたら1時間に330mmの雨が降る可能性もあるかもしれません。このような大雨は雲の中のどのようなメカニズムでつくられるのでしょうか。



気球観測から得られた雲の中の降水粒子画像

私は、雨が降るときに雨の降る現地に出かけて雨雲に気球を飛ばして雲の中を直接観測するというアプローチで研究をしています。

中谷宇吉郎博士の有名な「雪は天からの手紙」という言葉を借りると、私の研究は「手紙を天に取りに行く」観測です。観測をするための測器開発にも興味をもっています。このような研究は明日の天気予報がすぐに改善されるような研究ではありませんが、基礎研究という位置づけの大事な研究です。

## 「基礎研究は楽しく！」

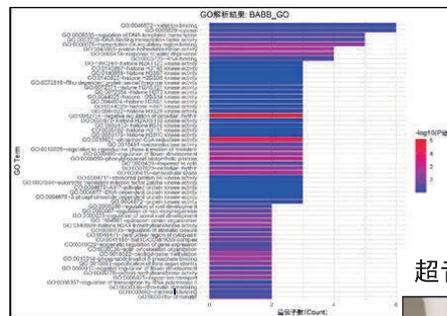
をモットーに、毎年、学生を連れて雨や雪の観測に出かけます。研究室の中で難しい気象学の教科書を読むより何百倍も勉強になるはず。自らで作った観測機器を使って、自らで現象を観測し、その現象を明らかにすること、これができることに幸せを感じています。



山口大学農学部  
生物資源環境科学科  
気象学研究室  
鈴木 賢士 教授

## 果樹の受精（自家不和合性）に関する研究

世界中に存在する3分の2以上の作物は“自家不和合性”という性質を持っています。この性質は簡単にいうと自己花粉が柱頭に受粉されても、花粉の発芽や花粉管の伸長が阻害され、受精が起こらない現象を意味します。単為結果性や自家不和合性は種無し品種を育成するために有効な性質であるため、様々な園芸作物で研究が進んでいます。

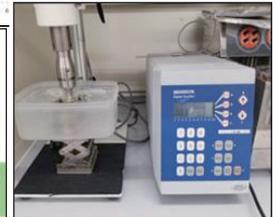


カンキツ品種である“晩白柚”の受精に関わる候補遺伝子の発見

超音波ホモジナイザー



果皮のナノ粒子化による機能性成分の変化



廃棄される未熟果カンキツ果皮の有効活用法の研究

## 廃棄される未熟果カンキツ果皮の有効活用法の研究

多くのカンキツ類の成熟期の果実では、機能性成分が豊富に含まれており、その成分を生活習慣病予防に繋げる研究が注目されています。日本では9月前後に台風の影響で未成熟の青い果実の段階で落ちてしまい収穫まで至らず捨てられる果実や、摘果によって、大きな果実を付けさせるために間引かれるなど、様々な理由から収穫に至らず捨てられる果実を有効活用するための方法を探索中です。

## 「育てる・食べる・楽しむ」

ことができる園芸作物！



山口大学農学部  
生物資源環境科学科  
果樹園芸学研究室  
金 貞希 准教授

果樹を含む園芸作物は、私たちが健康的に過ごすため、生活を楽しむために不可欠であり、産業上においても日本だけではなく世界で重要な役割を果たしています。

私の研究室では、果樹に関する諸形質の遺伝と育種への利用および不可食部位の有効活用法について研究をしています。今年からはカンキツのユズ品種において、トゲがどのように発生したのか等について原因遺伝子を探索する研究を始めました。

# 農学部教員 研究紹介

生物機能科学科



山口大学農学部生物機能科学科  
食品機能化学研究室  
井内 良仁 教授

皆様は昆虫食と聞いて何を思うだろう？昆虫食は東南アジアではなじみのある食料であるが、日本では昆虫食を食すことは、テレビで報道内容として取り上げられるように食料のイメージは根付いていない。しかし、山口大学の井内教授は昆虫食の新たな可能性に目を向けて研究している。

井内教授は主に、「人間の不老長寿をめざすこと」や、「昆虫食の食品機能性について」研究されている。まず、「人間の不老長寿をめざすこと」に関する研究では、ヤマトシロアリの長寿命の仕組みや繁殖戦略を明らかにするため、シロアリの抗酸化システムや代謝調節に注目した解析を行っている。昆虫といえば、平均的な寿命が短いことで知られているが、ヤマトシロアリの女王や王の寿命は長いもので30年以上である超長寿命な昆虫である。このように長寿である理由のひとつとして活性酸素が関係していると井内教授は考えている。活性酸素は核酸を酸化させる際に遺伝子を傷つけ、立ち行かなくなるとアポトーシスが起る。そのアポトーシスが過剰に起こることで、老化や疾患の原因になると考えられる。これらのことから、活性酸素は生物の寿命に多く関与しているといえるだろう。息をしているすべての生物は活性酸素を生成しているが、ヤマトシロアリは、この活性酸素の障害を消すような防御システムを持っている。ゆえに、ヤマトシロアリは長寿なのである。ヤマトシロアリの体の仕組みについて調べ、この活性酸素の防御システムを人間の体でも活用できるように井内教授は日々研究に励んでいる。

## 昆虫食の無限の可能性

### 老化抑制と寿命の延長のために

次に、「昆虫食の食品機能性について」に関する研究では、昆虫食が健康寿命のプラスになる“機能性食品”であることを主張している。日本では昆虫を日常的に食べる人は多くない。従来食の量的不足や生産過程における環境負荷増大の問題を解決するために、昆虫食を代替食とする事はコストやおいしさといった観点から見ると現実的ではない。しかし、昆虫食は“高タンパク低脂肪”であるため、代替タンパク質として食される。また、生活習慣などの疾患のリスクの低減、免疫力の増強、あるいは疲労回復などの健康維持に寄与する生体調整機能がある。これらのことから、昆虫食をより身近に食べられるようになればと考えている。発展途上国で昆虫食が食べられる理由として、貧しさゆえに食べていると考える人は多いだろう。しかし、“貴重なタンパク源”であり、高価であるため、超高級食品なのである。また、メタボリックシンドローム改善効果を示唆する実験を行っており、その効果をもたらす原因について分析を行っている。ただ長生きをするというのではなく、健康で元気に過ごせるような毎日を目指す—それが井内教授の研究の柱となっている。昆虫が持つ独自の生理機能や代謝系は、私たち人間にとって未知のヒントが詰まっている宝庫であり、人間の未来に役立てようとする試みが、今まさに山口の地から広がろうとしている。

最後に、井内教授は読者に向けて、「自然科学の基本は、実験やデータの先にある“自然そのもの”をよく見て、感じ取り、興味を持つことにある」と語っている。研究室の中だけでなく、実際に自然の現場に身を置き、そこから問いを見つけていくことこそが科学の出発点であり、未来の発見につながるのだという。私たち一人ひとりが自然に対して好奇心を持ち続けることこそが、次なる科学の扉を開く鍵となるだろう。



# 大学院生 研究紹介

栽培学研究室  
創成科学研究科博士前期課程1年  
小久保 大地さん



山口大学内の圃場で小麦の播種を行っている様子

収穫した水稲を乾燥させている様子



圧縮した堆肥を圃場に施用している様子  
圧縮した堆肥の効果を検証する実験

## 研究紹介

～地球に優しい小麦生産をめざして～

西日本のお米やコムギの生産地では、水田で水稲を作り、続いてコムギを栽培する「二毛作」が行なわれています。しかし、二毛作が行われている農地は土壌の栄養が減りやすく、有機物や土壌の状態を良くする資材を入れないと、土の力（地力）が落ちています。私たちの調査では、山口県内の生産者圃場でも地力が著しく低下している圃場が多くみられるようになりました。

有機質肥料を土に与えると、土壌中の炭素や窒素が増え、土が柔らかくなり、栄養の保ち方も良くなります。しかし、二毛作の栽培体系では、水稲作とコムギ作の間の期間が短く、十分に有機質肥料が使われているとは言えません。また、有機質肥料の効果は化学肥料ほど劇的ではないので、手間やコストをかけてまで畑に撒くのもな、と考える人が多いのが現状です。

そこで私の研究では、コムギの栽培期間中に鶏糞を追肥する新たな肥培管理方法の効果をみています。この方法により、生産者にとっては有機質肥料が使いやすく、しかも価格が急騰している化学肥料を使わなくてもよくなるという利点があります。地球にとっては、化学肥料の使用が減りますし、地域の「鶏糞資源」が活用できるので、地域循環型農業に近づくことができます。

今後は、圃場での長期的な施用効果や収量・品質への影響も評価し、現場で実践可能な技術として広く活用されることを目指していきます。持続可能な農業の実現に少しでも貢献できるよう、地道な試験と検証を積み重ねていきたいと考えています。

## Q. 小麦の研究に興味を持った理由

A. お米が好きで、研究室配属当初は水稲に関する研究を志望していました。しかし、水稲の裏作として栽培されているコムギの存在や、水稲・コムギの二毛作による持続的な農業の可能性を知り、コムギにも強く興味を持つようになりました。

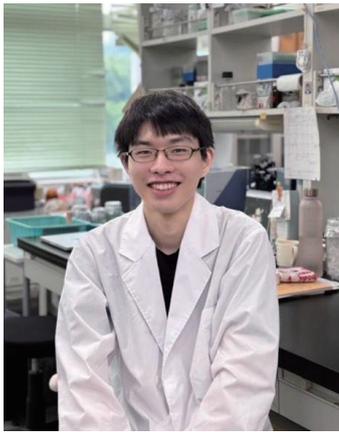
今では、お米と同じくらいコムギにも愛着が湧いています。国産小麦の需要が高まる中で、日本に適した栽培技術を確認し、米とコムギの研究を通して日本の農業に貢献したいと考えています。

## Q. 研究をしていて楽しいことや大変なこと

A. 自分で立てた仮説を検証する時や、結果をもとに次の仮説を考えて実験を進めていく過程に楽しさを感じます。また、体を動かすことが好きなので、フィールドワークを通して実際に作物や土に触れながら学ぶことも楽しいです。

一方で、研究は良くも悪くも自分次第で進むため、自己管理を行うことが大変です。毎日研究室に通い、1週間ごとにやるべきことをコツコツと積み重ねていくという、そのあたりまえの継続が難しく、大変さを感じることもあります。

# 大学院生 研究紹介



応用微生物学研究室  
創成科学研究科博士前期課程 1 年  
岡田 祐典さん



*Corynebacterium glutamicum*



コリネ型細菌の培養の様子

## 研究紹介

微生物を知ることは、生物学を深めるだけでなく産業上有意義です。私たちが研究している微生物は食品や有用な化学物質の生産者として利用されている発酵微生物で、微生物の「発酵」機能の解析とその利用についての研究が行われています。

私は、*Corynebacterium glutamicum*というアミノ酸や有機酸の生産に利用される細菌を研究しています。生物は生きるために微量のマンガンを利用しています。マンガンの金属イオンは高濃度で存在すると毒として作用するため、細胞内のマンガニオンの濃度は厳密に制御されています。私の研究はコリネ型細菌における細胞内マンガニ濃度の制御機構を明らかにし、マンガンと細胞のストレス応答の関係を理解することを目的としています。コリネ型細菌には細胞外とマンガンをやり取りするために、マンガンを取り込む輸送体と排出する輸送体をもっています。私の研究では、マンガンの排出輸送体を欠損させると高温環境で野生株に対して生育の遅延がみられました。また、マンガンを取り込む輸送体の発現を抑制しているタンパク質を欠損させると高温環境で生育が阻害され、関連するマンガン取り込み輸送体を欠損させると生育が回復することを示しました。このことは高温環境においてマンガンの存在が細胞の生育に悪影響を及ぼしていることを示唆しており、一連の結果からマンガンと高温ストレスの関係が垣間見えました。

最近では、マンガン輸送に関わるタンパク質を欠損させた菌株について高温における生育の経時変化の様子を野生株のものと比較し、対象のタンパク質欠損の影響を調べています。

また、マンガン輸送系の改変による高温耐性の向上にも興味があり、1°Cでも高い温度で生育することができるコリネ型細菌を作る事ができれば面白いと考えています。

## Q. 研究を始めたきっかけや興味を持った理由

A. マンガ「もやしもん」の影響もあり、大学に入学した当初からなんとなく微生物を研究したいと考えていました。生物機能科学科には微生物に関連する研究室がいくつかありましたが、「規模が一番大きく、様々な実験ができそう」という曖昧な理由で応用微生物学研究室を希望しました。希望どおりの研究室に配属されたものの、その時点で微生物研究の素人だった私は具体的にやりたい研究もなく、微生物を研究できればどのようなものでもいいと考えていたため、成り行きで現在のテーマを始めたというのが実際のきっかけです。結果的には、研究室でも取り扱っている人が少ない細菌の研究を始めることになり、風変わりな研究にいつそう興味が湧いたことを覚えています。

## Q. 将来の目標や進路について

A. 研究生活に関する目標は、たくさん実験をして得られた知見を世に知らしめることです。1年間の研究生活で自分は実験が好き人間であるとわかったため、時間と気力の許す限り実験をして、結果を披露する機会にも積極的に臨んでいきたいと考えています。進路については、非常に難しい問題だと感じました。なぜなら、私は現時点で就職か進学か自分の中で定まっていなかったからです。当面は自身の進路を決めて、とりあえず行動を起こすことを最優先事項にすべきだと感じています。

## Q. 研究室の雰囲気や日常について一言

A. 人数が多い分、多くの人と交流できることがこの研究室の魅力の一つだと思います。研究者としてのコミュニケーションに留まらない関係を築くことは、充実した日々の一因となっているように感じます。

## 学科紹介～普段の取り組み～

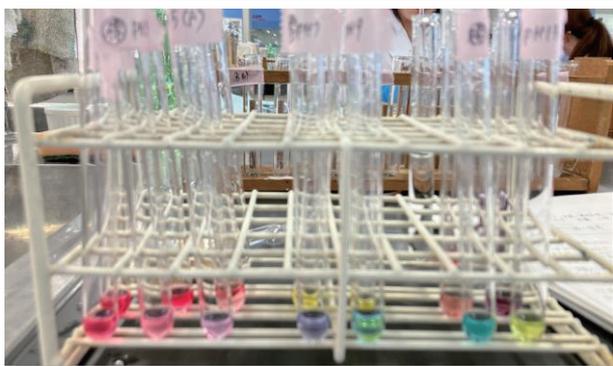
生物資源環境科学科では、農業に関わるさまざまな分野を学びながら、将来の食料生産や持続可能な社会の実現に貢献するための教育と研究を行っています。

生物機能科学科では、微生物・植物・動物が持つ優れた機能に注目し、その仕組みを明らかにすることで、食品・医療・環境分野などへの応用を目指した研究が進められています。このように農学部では、食と環境に関わる課題に対して、さまざまな生物の力や農業技術を活かしながら、未来を支える研究・教育活動が日々行われています。ここでは、そんな農学部で普段どのような学びや取り組みが行われているのかをご紹介します。

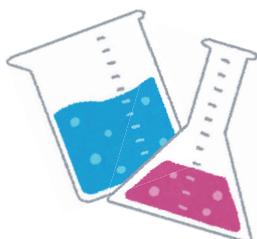


### 化学実験Aの様子

1年次の前期に行われる化学実験Aは農学部共通の科目です。身近な現象の原理を知ることができる面白い実験が多くあります。実験前のレポート作成は大変ですが手順通りにできた時の達成感は大きいです！



農学部では化学の知識が問われる場面が多くあります。化学実験は高校化学の応用が多く、実際に自分の目で現象を理解することでより学びが深まります！



# 生物資源環境科学科



## 基礎農場実習

2年次に附属農場において、農作業の実習を行います。

山口大学の附属農場はキャンパス内に約28haの敷地を有し、水田・畑地・果樹園・林地などが広がっています。この広大な農場のなかで基本的な農業技術を生産現場で体験することで理解を深めます。

①



②



③



実際に実習で行われている様子です。

① トウモロコシの畝作り。  
畝は水はけ・通気性の向上、地温上昇などといった効果をもたらします。

② ブドウのジベレリン処理。  
成熟の早期化や、種なしブドウを作るうえで欠かせない作業です。

③ 水稲の播種作業。  
田植えの前に育苗箱で苗を育てます。



# 生物機能科学科



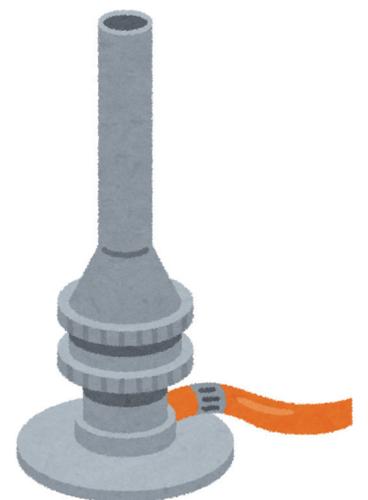
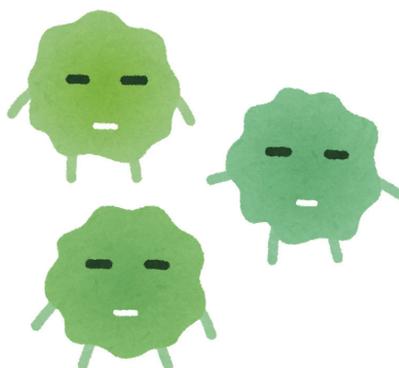
## 生物機能科学基礎実験の様子

2年次では1年次の実験よりも専門的な実験を行います。

写真は微生物についての実験の様子で、時間経過につれて大腸菌がどれほど増殖するのかについてや、いくつかの条件下における大腸菌の増殖の様子について学びます。



空気中の雑菌や、手・実験器具に付着している菌などが混入することを防ぐため、ガスバーナーの近くで実験操作を行ったり、こまめに消毒を行います。



## 教員インタビュー 生物資源環境科学科



武 靖 助教

黄砂の時空間分布の解析  
黄砂発生メカニズムの解明

### 研究内容を教えてください

気象学の中でも黄砂をテーマに研究しています。具体的には、黄砂の発生源や発生頻度の高い地域、発生時期などを調べています。また、植生調査も行っており、デジタルカメラによる画像解析や衛星観測を用いて砂漠地帯の植生割合を調べています。植生量を正確に測定し、黄砂に関する数値モデルの精度向上を目標にしています。

### ○山口大学の印象を教えてください

田んぼが多いなと思いました。盆地なため山に囲まれていますね笑

### ○大学時代にしていたサークルやバイトはありますか

中国の大学に通っていて、広報部に所属していました。看板を作ったり広報誌を作ったりしていました。大学院のとき日本に留学をし、名古屋で焼肉屋のバイトをしました。

### ○趣味は何ですか

登山が趣味です。山口に来る前は鳥取にいたこともあり、最近は大山に登りました。

### ○学生に一言お願いします

研究することは大変だと思いますが、大変なだけではなく楽しさも見つけられるはずです。自分のやりたいことを見つけて問題意識を持ち、それを解決できるような力を身につけて大学を楽しんでください!!



萩原 大生 助教

鋼矢板護岸における腐食実態の非接触検出  
流体 - 構造の相互作用に基づく送配水パイプラインの非破壊検査



### 研究内容を教えてください

農業生産に直接関わる研究というよりは、土木・工学の技術で生産の場をつくる研究を行っています。そのなかでも特に、農業で使われるインフラ(ダムや水路など)を対象にメンテナンスを行い、老朽化や災害への対策を行う研究をしています。

### ○山口大学の印象を教えてください

キャンパスに人が密集していて活気があるなと思いました。あと、学食が美味しいです。

### ○農学部の魅力は何ですか

幅広いところです。生き物・植物・遺伝子などから、工学的なことを研究している人もいて、思いもよらないことが学べるかもしれません。

### ○趣味は何ですか

Netflixを見たりします。

### ○学生に一言お願いします

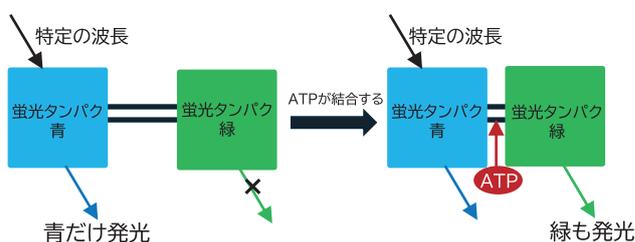
大学生は比較的時間があるので、いろんなことに挑戦してほしいなと思います。時間と若さがあるうちに気になったことに積極的にチャレンジしてほしいです。

# 教員インタビュー 生物機能科学科



今村 博臣 教授  
細胞の代謝状態の可視化  
分析細胞生化学  
バイオセンサーの開発

## FRETとは？



## 1. 研究内容を教えてください

動物の細胞を対象にATPがどのように安定に存在するのかATP濃度の濃い細胞や薄い細胞があるのかといったATPの分布について研究しています。

ATPの分布を知るためのシステムとして蛍光タンパクを用いています。仕組みとしては、色の異なる蛍光タンパクをつなぐタンパク質にATPが結合することで、蛍光タンパク同士の間が縮まり、その結果「FRET」という現象が起きることを利用しています。

この研究をすることで、生物の機能の解明や病気の治療にもつながります。

## 2. なぜその研究をしようと思ったのですか

大学院でタンパク質を結晶化させ、調べる研究をしていた頃、いつかカッコいいタンパク質を作りたいと思っていました。そして、卒業後にATPと関係のあるリソソームのプロトンポンプの観察をしており、試験管の中だけでなく、実際の細胞ではATP濃度がどうなっているのか気になり調べてみましたが、納得のいく文献はありませんでした。そこで、生きている細胞でもATP濃度が分かるようなバイオセンサーを自分で作ろうと思い、この研究を始めました。

## 3. なぜ研究職に就いたのですか

研究が自分の性格に合っていたからです。まだ誰も知らないことを自分で明らかにすることが面白いと感じていました。特に、研究が上手くいった時の感覚は他に代え難いです。

## ○ 学生時代の思い出

引越しのアルバイトをしていました。またサークルでは登山をしていたので、体力がよくなりました。印象に残った思い出は、北アルプスを一週間かけて登頂したことです。30 kgくらいの荷物をもって登頂したので、きつかったです。研究では長時間実験を続けられないといけない時があったり体力が必要なので、学生の皆さんも今から体力をつけておくと良いと思います。

## ○ 学生へのアドバイス

部活やサークル活動など遊ぶことも大切ですが、勉強をしっかりとおきましょう。私自身、あの頃しておけば良かったと思うことがありました。また、良い友達を見つけることも大事です。お互いに成長できるような友達を見つけて素敵な学生生活を送ってくださいね。

## — 農学部の魅力は「多様さ」 —

農学部は微生物や植物、動物、土壌など多様な分野があるところが魅力だと思います。農学部は応用研究が多いですが、基礎を疎かにしているわけではなく、基礎分野もしっかり研究されています。そのため農学部で学ぶ学問は奥行きがあり、幅広いです。

幅広いからこそ、自分にじっくりくる研究室が見つかるのも魅力の1つだと思います。

山口大学の研究設備は、共通機器が想像以上に充実していて、あの機械が使いたいとなった時に、すぐ使えるところが良いです。

私の研究室は、「システム生物学RI分析施設」にあり、主に培養倒立顕微鏡を使っています。この顕微鏡では、生きた細胞を観察することができ、蛍光観察もできます。蛍光観察では、当てる光を変えることが出来るので、蛍光タンパクを用いたバイオセンサーの研究に適しています。

他の大学にはあまり置かれていないLC-MSやGC-MSという機械もあります。

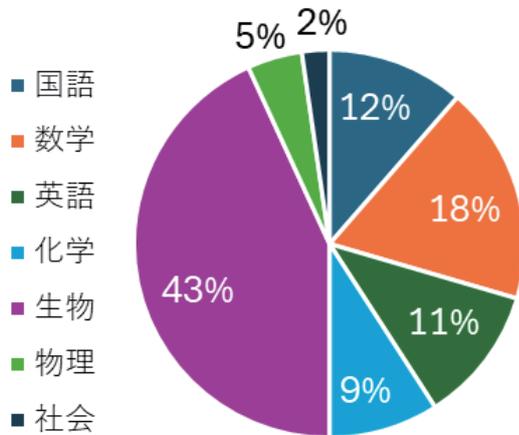
山口大学生の皆さんは素敵な環境で研究ができるので、研究室に配属されたらぜひ研究に励んでください！



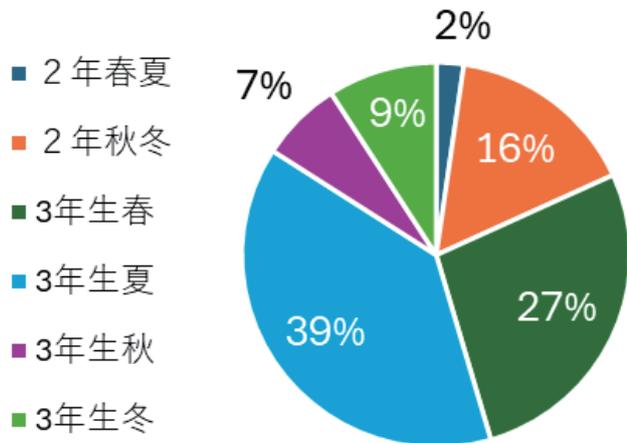
# 1年生の実態調査

「山口大学農学部になぜ入学したのか」をテーマにアンケートをとりました。  
ご回答いただいた生物機能科学科28名、生物資源環境科学科16名の結果をご覧ください！

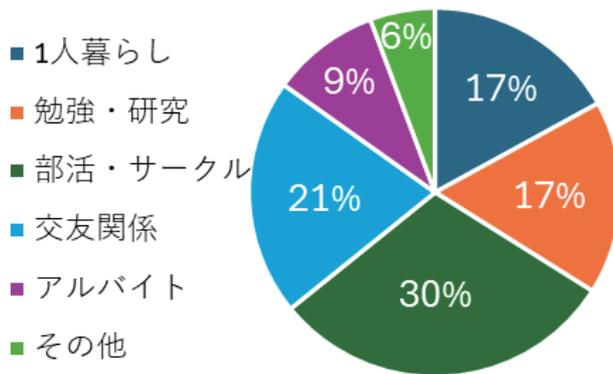
## 高校の時の得意教科



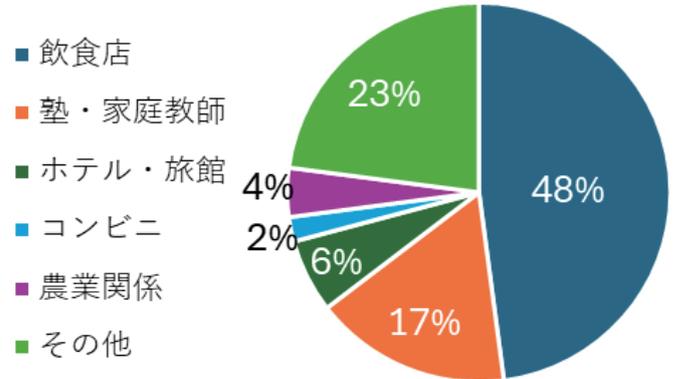
## 受験勉強を始めた時期



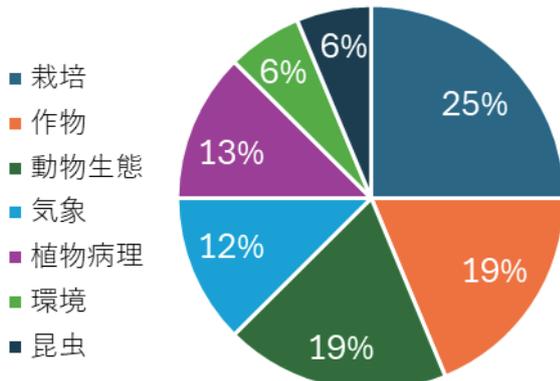
## 大学生活で楽しみにしていること



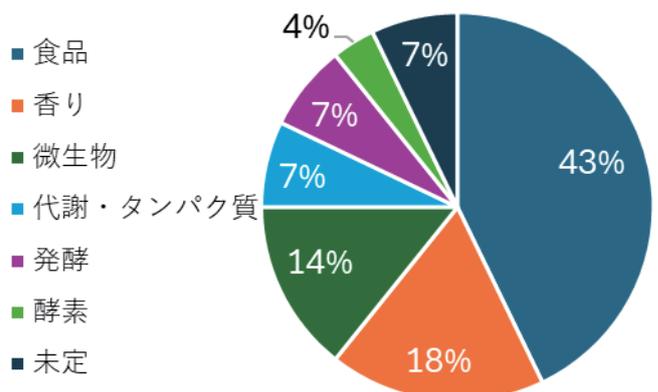
## してみたいアルバイト



## 気になっている研究（生物資源環境科学科）



## 気になっている研究分野（生物機能科学科）



山口大学に入学してどのような印象を抱きましたか？



山口大学農学部のおすすめポイントを教えてください！

キャンパスが広く、緑、自然に囲まれている。  
のどかで快適。落ち着いた雰囲気でも過ごしやすい。  
雰囲気が穏やかでのびのびできる。  
カフェや学食が充実していて学食が美味しい！  
学生が優しくて面白い！  
活気のある活動がたくさんあり、楽しい！  
いろんな個性を持った人がいる。とにかく明るい！  
図書館が充実している。

学生が落ち着いていて優しいこと。

先生方が優しい、個性豊かで面白い！

広い農場、植物工場がキャンパス内にあり学部棟から近いこと。

農学入門や基礎セミナーなどで1年次から大学4年間の見通しを持てる。

自然に囲まれ、農学部にとって研究する環境が整っている。

人数が程よく、アットホームな雰囲気なこと。

研究室が充実している！

履修できる科目が面白い！

それぞれの科で資格を取ることができる。

メインキャンパスにあるところ。

学部棟がFAVOやきららに近いところ。

基礎から学び直せるため、知識が身につく、専門的な勉強ができる。

農業関係だけでなく、生物、化学、微生物学など、幅広い分野を

学ぶことができ、将来の選択肢が広がる場所！

一人暮らしで困ったこと、  
良かったことを教えてください！

#### 困ったこと

家事が面倒、大変。  
お金の管理、調整が難しいこと。  
1日が短すぎることに！  
虫(黒くて速い虫)への対処！  
風邪を引いたときの対処。

#### 良かったこと

自由に時間を使える！  
家事に慣れ、1人でできることが  
増えた！  
責任ある自由が楽しい！  
自分と向き合う時間が増えた！



# 農学部広報部紹介



## 主な活動

- ・ 月2回のInstagramによる発信
- ・ 広報部だよりの作成（主に1年生が担当）
- ・ オープンキャンパスの案内
- ・ 農学部広報誌NOAHの作成
- ・ リーフレットの作成



今年度の春はバーベキューによる交流会を行いました！

32名のメンバーで活動しています！

◀ agri\_yamaguchi\_u



山口大学農学部広報部

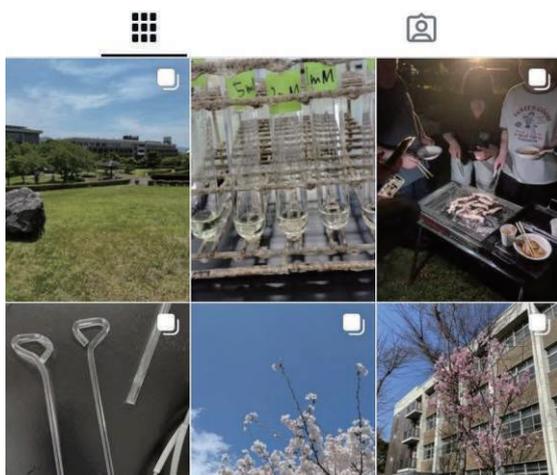
79  
投稿

206  
フォロワー

0  
フォロー中

山口大学農学部の公式アカウントです！  
広報部員が情報を発信していきます！  
ご投稿いただいたコメントにお返事を差し上げることはできません。不適切と考えられるものにつきましては、削除・アクセス制限等させていただきます。  
お問い合わせ等は [aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp) まで。

[www.agri.yamaguchi-u.ac.jp](http://www.agri.yamaguchi-u.ac.jp)



皆さんこんにちは  
山口大学農学部広報部です。  
新学期が始まって1ヶ月が経ち私自身も少しずつですがキャンパスライフに馴染めてきました。また5月には大学生になって初めてのゴールデンウィークがありました。私は地元から友達が集まってくれたので山科を案内しました。皆さんはどのようにお過ごししましたか？さてこれから私が入学して一番楽しかった講義を紹介したいと思います。それは化学実験Aです。実験前のレポート作成は大変ですがその分やりがいや予習通りの結果になった時の感動は大きいです。



6月には大学に入学して初めての中間テストがあります。今から少しずつ勉強していいスタートを切りたいです。  
生物機能科学科KA



山口大学農学部  
生物資源環境科学科  
鈴木 賢士 教授



農学部に広報部ができて8年になりました。山口大学農学部の良さを高校生、保護者の皆さんほか、多くの人に知ってもらいたい、そのためには頭の固い我々教職員だけでなく、柔軟な発想を持った若者、特につい最近まで大学入学を目指す高校生だった学生の力が必要でした。私が高校生だったらこういう情報を知りたいな、という発想が我々にはないのです。

毎年4月に私が担当する1年生の講義の中で現役部員が新入生を勧誘するのが恒例になってきましたが、その中で「ガクチカ」という言葉を知りました。「学生時代に力を入れたこと」という就活用語だそうです。農学部の広報活動に携わると「ガクチカ」になるよ、というのが誘い文句のようですが、「この広報誌は私が作りました」「このリーフレットは私が編集しました」「この広報ビデオは私が撮影しました」など、明確な成果物があるのは説得力があります。また、いかに情報を発信するか、そのためにはどのような準備が必要か、取材先との交渉、編集会議などなど、一人ではできない仕事を仲間と一緒にいかに効率よく進めるか、これらは形は違っても社会に出たら必要不可欠なスキルですし、それができできないで評価されることもあります。これは研究においても同じで、目的に向かって、どのような手法を使って、何を明らかにするのか、一人でできない研究は大学の先生、他の研究機関の研究者、先輩、後輩と一緒に一つ一つの目標に向かって研究を進めます。広報部での活動を通じてこういったスキルを身につけてくれたら嬉しいですし、広報部に入って初めて知る山口大学農学部の良さも再認識してくれたらと思います。コロナ禍を経験し、紆余曲折ありましたが、今では部員も30名近くになりました。頼りにしています。「楽しく」やっていきましょう！



山口大学農学部  
生物資源環境科学科  
妻鹿 良亮 准教授

今回初めて広報誌NOAHの制作に携わりました。わたしが学生だった頃はこのような大学の一学部の広報活動に学生が携わるといった機会がなかったので、どのようなモチベーションで広報部員たちが活動しているのかという疑問がありました。最近では、就職活動でも大学での勉強だけでなく、部活やボランティアといった学業とは離れた活動（ガクチカ）が採用の評価に使われるようになってきているようです。確かにわたしも仕事として大学の研究や教育に携わってみて、いかにこの勉強以外の力（交渉力、対話力、表現力など）が大切かを身を持って実感しました。広報部という経験を通してこのような力を学生時代に少しでも身につけておくことは学生の将来にとって非常に価値があることだと思います。

鈴木先生がおっしゃるように、学生とは倍以上も年齢が離れた、頭の固いわたしたち教員目線では、今の高校生や大学生が考えていることは正直理解できません。その欠けた部分をサポートして山口大学農学部の魅力を、高校生、その保護者をはじめ、大学のことをよく知らない一般の方々に伝えてもらえることを期待しています。仲間と協力して一つの成果物を作り上げるために必要なスキルは、本を読んだり、ネットで調べたりといった座学で培うことは難しく、経験でしか培えないとわたしは考えています。ぜひ広報部の活動を自らのスキルアップの機会と考えて取り組んでもらえると幸いです。



# 編集後記

所属	名前	ひとこと
生物機能 3年	A.T.	NOAH制作を通じてたくさんの方と関わることができました。2025年度の広報部員でつくったNOAH、楽しんで読んでみてください！！
生物資源 2年	K.G.	先生と打ち合わせをしたり、貴重な経験になりました。農学部に興味をもっていただけたら嬉しいです。
生物資源 2年	H.I.	広報部の活動を通して、普段関わることのない先生方のお話を聞くことができ、学ぶことがたくさんありました！
生物機能 2年	K.O.	広報部紹介を担当しました！普段の活動を振り返ることができました。今年度も楽しく活動していきます！
生物機能 2年	R.O.	機能の教員インタビューを担当しました。先生にインタビューたり、実験機器を見せていただいたり、貴重な経験ができました。
生物機能 2年	Y.O.	NOAHの作成をするあたって直接先生からお話を聞くことができ、貴重な経験になりました。ぜひ読んでいただけると嬉しいです！
生物機能 2年	S.K.	広報部紹介を担当しました。この記事を通して広報部の活動に少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです！
生物機能 2年	H.K.	大学院生の方の研究紹介を担当しました。院生の方と関わることができて貴重な経験になりました！
生物機能 2年	R.S.	機能の教員インタビューを担当しました！農学部の魅力を発信していけるように頑張ります！インスタもしているのでぜひフォローお願いします (^)b
生物機能 2年	N.T.	農学部教員の研究紹介を担当しました。NOAHを通して、農学部のことをもっと知って頂けると幸いです。
生物機能 2年	M.N.	インスタや広報部日より、毎月更新してますのでぜひ覗いてみてください！
生物機能 2年	K.S.	大学院生の研究内容紹介を担当させていただきました！普段はなかなか関わる機会のない大学院生さんと直接お話しし、専門分野に情熱を傾ける姿に触れることができ、大変貴重な時間となりました！

所属	名前	ひとこと
生物資源 1年	M.S.	広報の仕事は初めてで、インタビューなど緊張することもありましたが楽しんで作成することができました！農学部に興味を持っていただけると嬉しいです！
生物資源 1年	M.Y.	初めてでしたが多くの方に協力していただき楽しく作ることができました！！
生物機能 1年	Y.O.	1年生の実態調査から農学部の新たな良いところを発見できて楽しかったです。写真のみんなの笑顔が大好きです！！
生物機能 1年	M.H.	1年生の実態調査を担当しました。同じ1年生の現状を把握することができて良かったです。
生物機能 1年	S.O.	化学実験Aを担当しました。これから広報部として読者の方が楽しめるような記事作りを頑張っていきたいです！
生物機能 1年	K.A.	化学実験Aを担当しました。このNOAHを見て実験に少しでも興味を持ってくれたら嬉しいです！
生物機能 1年	A.S.	1年生の実態調査を担当しました。同じ農学部でも生物機能科学科と生物資源環境科学科で回答の特徴がはっきりと分かれていることに興味しました。
生物機能 1年	R.O.	1年生の実態調査を担当しました。作る中で農学部に入ってから目標や元気な様子を見て自分も元気が出ました！
生物機能 1年	S.F.	1年生の実態調査を担当しました。多くの方が積極的に協力してくださり、楽しく制作することができました！
生物機能 1年	H.S.	1年生の実態調査を担当しました。声をかけるとすぐに協力してくれて、改めて農学部の人たちの優しさを感じました!!